ＩＲＥＮＡ第１２回総会サイドイベント
官民対話「再エネと循環経済」セッション２
小田原副大臣発言（和文仮訳）

発言の機会を頂き有り難うございます。また、本重要なテーマの下で官民対話の機会を設けていただき感謝いたします。

我が国は、２０３０年頃から寿命を迎える再エネ機器の大量廃棄の問題への対処の重要性について、これまでＩＲＥＮＡの場で問題提起してきました。持続可能な形での再エネの普及促進には、その導入の加速化だけではなく、将来的な廃棄の問題についても予め検討しておくことが重要です。

再エネの推進に不可欠な重要鉱物資源の安定的な供給も益々重要です。使用済み製品のリサイクルや再エネ機器のリユースも官民で取り組むべき課題であると考えます。

本官民対話のテーマである「循環経済」を、単なる理念の提唱に留まらず、各国の気候変動目標と整合させつつ国際社会の足並みをそろえた取組として着実に実施するためには、民間部門による取組のみならず、各国政府の強いリーダーシップによる透明性のあるルール作りが重要です。今般、加盟国の官民が知見を共有し、国際社会としての取組を議論することは正に時宜を得たものだと考えます。

私は、政権与党第一党の自民党の再エネ普及拡大議員連盟のメンバーとして、再エネ分野における制度作りにも積極的に取り組んで

まいりました。

　再エネ機器の４Ｒ、即ちReduce、Repair、Reuse、Recycleについて、コストを抑えつつ実現するためには、第一に「透明性の高いデータの開示」、第二に「ライフサイクルにおける環境や労働者の人権保護の評価」、第三に「４Ｒ推進における明確なルール作り」が重要だと考えます。

　我が国では、使用済み太陽光パネルの効率の良い回収と資源の再利用を実現すべく、機材の性能や資源の含有量等のデータを一元化した情報プラットフォームを構築しているところです。

　また、リサイクル製品に対する信頼性を高めるためには、再エネ機器のリサイクル工程における環境評価や、労働者の人権保護状況の評価も重要です。今後益々重要性を増す価値基準について、透明で統一的な評価方法を実現するための議論を開始する必要があると考えます。

　加えて、４Ｒ推進における安全性や信頼性の確保のための指針の整備も重要です。我が国では、太陽電池モジュールのリユースの判断基準や、海外への輸出時の情報管理の方法等を示したリユース促進に関するガイドラインを策定・運用を始めたところで、これから蓄積されていく知見を喜んで共有したいと考えます。

　持続可能な循環経済の実現は、コロナ後の世界における経済成長や雇用の回復に向けた大きなチャンスです。このためには、投資家が安心して投資を行うことの出来る環境整備が重要となります。この点、ＩＲＥＮＡは、各国の事情に配慮しつつ、共通のルールやガ

イドラインの策定を議論するのにふさわしいフォーラムだと考えます。

　我が国は、４Ｒ推進のための技術とイノベーションを活用しつつ、我が国の経験に基づき、ＩＲＥＮＡと共に、この分野におけるルール作りに向けた議論に積極的に貢献していきたい考えです。

　ご清聴ありがとうございました。